

「七」という漢字数名詞

日本人は、目出度いことに「七」の数詞を用いることがよくある。この「七」だが、読み方に、字音で「シチ」、字訓で「なな」という。

實際例を挙げてみると、

虹の七色

七色

春の七草

秋の七草

北斗七星

七つの海

七小町

七音

七教

七情

七情

七情

七情

七情

晉竹林七賢 阮籍・嵇康・山濤・向秀・劉伶・王戎・阮咸
七難 火難・水難・羅刹難・刀杖難・鬼難・枷鎖難
怨賊難 (法華經)

草紙洗小町・高安小町・清水小町
ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド
父子、兄弟、夫婦、君臣、長幼、朋友、賓客
喜・怒・哀・懼・愛・惡・欲 (禮記)
喜・怒・哀・樂・愛・惡・欲 (佛家)
喜、怒、憂、思、悲、恐、驚 (醫家)
国常立尊、国狭槌尊、豊斟淳尊、泥土煮尊、沙土煮尊、
大戸道尊、大戸間辺尊、面足尊、惶根尊、伊弉諾尊、
伊弉册尊

赤・橙・黄・緑・青・藍・紫
紫・藍・青・緑・黄・橙・赤
芹・薺・御形・繁縷・仏の座・松・蘿蔔
萩・尾花・葛・撫子・女郎花・富士袴・桔梗
倉狼星、巨門星、祿存星、文曲星、廉貞星、武曲星、
破軍星
南太平洋、北太平洋、南大西洋、北大西洋、インド洋
南極海、北極海
関寺小町・鸚鵡小町・卒都婆小町・通小町
草紙洗小町・高安小町・清水小町

七宝 金、銀、琉璃、車渠、碼瑙、玻璃、真珠
孟子七篇 梁惠王 公孫丑 滕文公 離婁 萬章 告子 盡心
七書 孫子 吳子 司馬法 尉繚子 三略 六韜 太宗問對
本朝七清華 花山院 西園寺 大炊御門 久我 轉法輪 徳大寺
菊亭

七方 大、小、緩、急、奇、偶、復
七觀音 千手觀音、馬頭觀音、十一面觀音、聖觀音、
如意輪觀音、准胝觀音、不空羅索觀音

七座 絹座、炭座、米座、檜物座、千朶積座、相物座、馬商座
魚、米、器、塩、刀、衣、藥

七衆 比丘、比丘尼、式叉摩那、沙弥、沙弥尼、優婆塞、優婆夷
七道 講師、読師、呪願師、三礼師、唄師、散華師、堂達
七道 東海道、東山道、北陸道、山陰道、山陽道、南海道、
西海道

七福神 大黒天・蛭子・毘沙門天・弁財天・福祿寿・寿老人・
布袋和尚

七仏 釈迦牟尼仏、毘婆尸仏、尸棄仏、毘舍浮仏、拘留孫仏、
拘那含牟尼仏、迦葉仏
七曜 日曜、月曜、火曜、水曜、木曜、金曜、土曜

世界の七不思議 エジプトのピラミッド、バビロンの空中庭園、
ゼウス神像、エフェソスのアルテミス神殿、
ハリカルナッソスのマウソレイオン、
ロードス島のコロッソス、ファロス島の灯台

七十三五年 赤穂四十七士 四十七卷 七人の土 八百屋お七
十七條之憲法 環状七号線、略して「環七」と標示する。

と古典語から現代語までに及んでいる。これを声に出して読んでい
くと、この幾つかの語の読みに聞いていて可笑しな読み方がなされ



ていることに気づかされるのである。本来、「シチ」と字音で読むべき熟字語に字訓「なな」が用いられているのである。「ななひやくさんじゅうごねん」「あこうしじゅうななし」「よんじゅうななかん」「ななにんのさむらい」「やおやおなな」「じゅうななじょうのけんぼう」「かんじょうしちごせん」を「かんなな」。近くには、「環八」もあって、「こちらは「かんぱち」と読む。

この最後に挙げた「環七」は、道路標識にローマ字で「Kannana」と標示してある。これでは字音と字訓が混在し、たくはぐな日本語を大量に造り出していくことになりかねない。であれば、日本語としてこの読み方は余り好ましくない。公共掲示物におけるこの略語化自体にも問題が潜んでいるように思えて成らないからだ。

江戸時代の松葉軒東井著『警諭盡』(八册・天明六年自序、七年(一七八七)跋)には、「一三三四五六七八九十」と、洛東岡崎南端菴大我和尚(八幡山麓清水正法寺の隠居)作で「花に見よ何も名や爰満る月」という意味の發句を仕立てたりする。これは、漢字を和訓読みする例である。正月七日の「七草粥」は、「ななくさがゆ」と凡て和語字訓読みする。「春の七草」「秋の七草」や謡曲「七小町」も同様である。

《コラム1》

今思いつくままに現代語の表現ことばに親しもう！

「…っ子」 この上接語には地域状況が大いに反映している。「江戸っ子」「濱っ子」には、新たな文化社会を反映してか、「粋」でエネルギー溢れる人の地域というイメージが働く。だが、「現代っ子」「鍵っ子」という、ことば表現には、このプラス思考のイメージとは逆のイメ

ージが働くことば表現であることに気づかされる。これと、同じ表現に、「…な人」といった、今、関西方面にて用いられている表現があることをご存知であろうか。

「宝塚な人」「神戸な人」という。関東方面ではまだこのようなことは表現である、たとえば「六本木な人」「渋谷な人」等と云ったことは用いられていないようだ。

「…っばい」には、マンガ『っばい』そして、「…らしい」へ。

《コラム2》

「こすい【狡】(形) 悪賢い。ずるい。」 事をしおる「(狂言・馬口旁) けちだ。」年の暮互ひに き錢遣ひ 野坡(炭俵下)「(新潮『国語辞典』第二版)の語を第一拍めと第二拍めの音を顛倒して「すこい」と表現すると、「すっこい」「すっこい」という。鶏が先か卵が先かといった、どちらが先に誕生したことは表現であるか。関西では「ずるい」を「すっこい」と云う。この「すっこい」方が罪深くないというおまけ付きである。

《コラム3》

サロンパスCM「こつとつら」は、「コート裏」と(勘違い)……実は「(足の)甲と裏」で、別の意味内容をイメージさせ、本当の意味合いはこの意味であることを伝えて相手を困らすといった「ことは遊び」の表現である。たとえば、「りかちゃんとべんきょうしている」「やねえちゃんとふるにはいった」などの表現がこれに充当する。一種の「からかい嘲笑」のことば表現となっていることに気づくであろう。